

年齢からみた「能力」の正しい「引き出し方・伸ばし方」

「感受性期」には“個人差”、 脳のネットワーク発達は「無限」



写真右：野中康珠くん(8ヵ月)と成美ママ
<H24年12月16日生まれ>
写真左：犬童心叶羽ちゃん(5ヵ月)と垂矢ママ
<H25年3月9日生まれ>
※本文の内容と写真は関係ありません。

「なると早くから赤ちゃんの能力を開発した方がいい」とか「子どもの能力は3歳までに決まる」とかよく言われますが、これは本当でしょうか？「早期教育」こそ赤ちゃんの「能力」を伸ばす決め手になるのでしょうか？

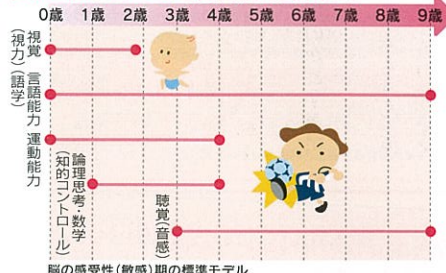
赤ちゃんの「能力」を説明する時によく「臨界期」という言葉が使われてきました。人間の脳皮質には、視覚、聴覚、言語、運動能力、知性的コントロールなど各機能をつかさどる「領域」があります。こうした領域で、乳幼児のある期間、スポンジが水を吸収するように能力を獲得していく時期がある」とされておられ、これを「臨界期」と呼んでいたのです。

「早期教育」が有効性があるのか、という疑問は、英語など語学(言語能力)だと言います。

以上から分かるように、「早期教育」にとって大切なのは、手当たり次第、習い事を詰め込むのではなく、むしろ、「赤ちゃんや子どもにもストレスを与えず」、「本人に楽しみながら習い事を体験させること」でしょう。



能力の種類によって「感受性期」は異なります



脳の感受性(敏感)期の標準モデル
参考/『ハッピー・エンジェル』2008年秋号「赤ちゃんの能力を伸ばす!!」、『同』2007年秋号「赤ちゃんのことは育む!!」

生まれたての赤ちゃんが持つ不思議な「潜在パワー」	手のひらに指を置くと握る(把握反射)	赤ちゃんと生れつき身につけている「原始反射」のひとつ。ヒトがサルだった時代、生きるために母乳の胸にしがみついていた頃の名称。「把握反射」は足にもあり、月齢がすすむにつれ次第に消える。
指を口に入れると吸いつく(吸乳反射)	親しみと怒った顔がわかる	生後10ヵ月の頃に赤ちゃんに、ニコニコしながら「グメ」梅い顔をしながら「グメ」として反応を比べると、笑った顔には反応を示さないが、梅い顔にはそれまでの動作を止め、相手の顔をじっと見たり、泣き出す。赤ちゃんは、相手の表情からどんな気持ちなのかを推測する。
ビックリとして両手が上にあがる(驚愕反射)	赤ちゃんは人間の顔が好き	生後0ヵ月頃の視力は0.02ほどで、明暗はわかるものの、視野が非常に狭く、目から20~30cm先に焦点が合う程度。しかし、ある実験によると、その赤ちゃんが興味を持って見つめるのは「人の顔を描いたもの」。赤ちゃんが愛情を示し最初その存在を認識するのは、ママの顔である。

家族のしあわせを、 いつまでも見守ってくれるお寺

1300余年の昔に開かれ、長きにおいて“水澤観音”で親しまれる由緒あるお寺。安産祈願・赤ちゃんの初参り・七五三など、古くから家族を見守る場としても信仰されてきた。

また、境内には直に触れてパワーを給するスポットが点在。山門から見上げる四季折々の美しい風景にも心が穏やかになる。

全国的にも珍しいお地蔵様が回転する六角堂で、家族みんなの幸せを願ってあげては？

キャラクターお守りやストラップも!

お地蔵様が回転する重要文化財指定の六角堂は、左に3回回すと真心の供養に。

坂東十六番札所 五徳山
水澤観世音
☎0279-72-3619
群馬県波川市伊香保町水沢214

<推奨アクセス> JR高崎駅より群馬バス「伊香保温泉行」に乗車→「水澤観音前」下車
<車> 波川伊香保より約20分

拝観時間/ 8:00~17:00、
ご祈願・ご供養受付/ 10:00~15:30、
拝観料/ 無料、ご祈願/ 5,000円~、
ご供養/ 10,000円~

名湯伊香保温泉のすぐ近く

水澤観音 検索

http://www.mizusawakannon.or.jp/

日本では子どもの「自己肯定感」は極端に低い。自分も他人も幸せになる「生きる力」を身につける

いじめとか自殺とか、学校からのドロップアウトとか、今の子どもを巡る問題の「根っこ」は、「自己肯定感の極端な低さ」にあると、私は感じています。自分が「必要な存在」「大切な人間」というよりも、「自分なんて存在価値がない」「いらぬ人間」と思っている子どもが本当に少なく



第23回日本外小児科学会年次集会 市民公開講座で講演する明橋大二先生。



第23回日本外小児科学会年次集会 市民公開講座(2013年9月1日、福岡国際会議場3階メインホール)。



市民公開講座後、「子育てハッピーアドバイス」の読書にサインする明橋大二先生。

ないです。だから「いない方がマシ」となってしまうのです。これは、日本、米国、中国の高校生を対象とした調査でも、はっきり表れています。

「教育」とか「子育て」の意義は、「学力を伸ばす」のはもちろんですが、子どもが「幸せな人生を送れる」ようにすることにありませぬ。そのためには、「生きる力」を身につけさせるとともに、結果として「自分も他人も幸せになる」必要があります。だから、「自己肯定感を育む」ような「子育て」がどうしても大切になります。なぜなら、子どもの自己肯定感が低いままでは自分の人生も他人の人生も大切にならな

「早期教育」が有効なのは「語学能力」
楽しみながら本人に体験させる

しかも、「感受性期」に特別な習い事をしなかつたら能力が伸びない、ということではありませぬ。また、環境などによってこの「感受性期」には個人差があるうえ、脳のネットワークはいくつになっても発達していくものです。

専門家によりまして、あえて言うならば、「感受性期」の能力で、早期教育の有効性は、はっきり分かっているのは、英語など語学(言語能力)だと言います。

以上から分かるように、「早期教育」にとって大切なのは、手当たり次第、習い事を詰め込むのではなく、むしろ、「赤ちゃんや子どもにもストレスを与えず」、「本人に楽しみながら習い事を体験させること」でしょう。

子どもの「心」は「依存」と「甘え」の繰り返しで成長
第1次反抗期の1歳半~3歳児には「十分甘えさせる」

では、どうしてそんなに「自己肯定感」が低くなるのか？ これには、やはり、親による子どもへの虐待、学校でのいじめ、親の子どもへの関わり方が希薄といったことが、関係していると思います。

子どもの「心」は、親に対する「依存(甘え)」と「自立(反抗)」の繰り返しによって、「成長」することが分かっています。「してはいけない」のは、子どもが親に「甘えたい」時に、「放任」したり、「ネグレクト」することであり、また、子どもが親に「反抗」している時に、むげに「抑圧・否定」したり、度を越した「過干渉」になることです。

適度な「依存」と「自立」の繰り返しによってこそ、子どもの「心」は成長します。これは第1次反抗期である「1歳半から3歳」児にもあてはまります。やや逆説的な言い方をすれば、「十分に甘えた赤ちゃん、子どもこそ「自立」できると言えます。また、子どもが親に「反抗」したら、むしろ

「できていない所に注目して子どもをほめる」「育つてくれている所に注目して子どもをほめる」

ですから、わが子を「十分に甘えさせて」、「能力を伸ばす」ためには、「抱っこ」する、「話を十分に聞く」などの「スキンシップ」がまず大切です。子どもの「気持ち」を汲んで言葉にして返す「つまり「言葉育」ても欠かせません。さらに、「できないこと」と「よりよい」で「できている所」に注目して、「子どもをほめる」のです。「できない所」を比べるなら、「他の子ども」とではなく、「以前」のわが子と比べてください。子どもの「頑張りを認めて、「頑張っているね」と伝えましょう。何よりも最高の「褒め言葉」は、「育つてくれてありがとう」なのです。

しかし、子どもをほめると言っても、お母さんが周囲から否定されたままでは、子どもをほめることはできません。まず子育てに頑張っているお母さんを周囲が認めることが大切です。

少子化の時代、「子が宝なら母もまた宝」。ここまで育ててきた苦労をねぎらう「ことこそ、今求められているのではないのでしょうか。

「自己肯定感」を育む「子育て」こそが、
赤ちゃん・子どもの「能力」を本当に伸ばす

立ちは止まって今いちど考えよう!
「能力を伸ばす」「子育て」とは?

「子どもにとって一番大切なのは、「自分は必要な存在、大切な人間」「自分の存在は価値がある」という「自己肯定感」。これが子どもの「能力」を伸ばす「基本です」。400万部突破の大人気シリーズ「子育てハッピーアドバイス」の著者、明橋大二先生はこう力説します。「自己肯定感」こそが赤ちゃん・子どもの「能力」を伸ばす」。先生の言葉を、立ち止まって今いちど考えてみましょう。取材・文/村上直樹

ベストセラー『子育てハッピーアドバイス』著者 明橋大二先生に聞く!

立ちは止まって今いちど考えよう!
「能力を伸ばす」「子育て」とは?

「子どもにとって一番大切なのは、「自分は必要な存在、大切な人間」「自分の存在は価値がある」という「自己肯定感」。これが子どもの「能力」を伸ばす「基本です」。400万部突破の大人気シリーズ「子育てハッピーアドバイス」の著者、明橋大二先生はこう力説します。「自己肯定感」こそが赤ちゃん・子どもの「能力」を伸ばす」。先生の言葉を、立ち止まって今いちど考えてみましょう。取材・文/村上直樹

「自己肯定感」を育む「子育て」こそが、
赤ちゃん・子どもの「能力」を本当に伸ばす

立ちは止まって今いちど考えよう!
「能力を伸ばす」「子育て」とは?

「子どもにとって一番大切なのは、「自分は必要な存在、大切な人間」「自分の存在は価値がある」という「自己肯定感」。これが子どもの「能力」を伸ばす「基本です」。400万部突破の大人気シリーズ「子育てハッピーアドバイス」の著者、明橋大二先生はこう力説します。「自己肯定感」こそが赤ちゃん・子どもの「能力」を伸ばす」。先生の言葉を、立ち止まって今いちど考えてみましょう。取材・文/村上直樹

「自己肯定感」を育む「子育て」こそが、
赤ちゃん・子どもの「能力」を本当に伸ばす

立ちは止まって今いちど考えよう!
「能力を伸ばす」「子育て」とは?

「子どもにとって一番大切なのは、「自分は必要な存在、大切な人間」「自分の存在は価値がある」という「自己肯定感」。これが子どもの「能力」を伸ばす「基本です」。400万部突破の大人気シリーズ「子育てハッピーアドバイス」の著者、明橋大二先生はこう力説します。「自己肯定感」こそが赤ちゃん・子どもの「能力」を伸ばす」。先生の言葉を、立ち止まって今いちど考えてみましょう。取材・文/村上直樹

精神科医、児童相談所嘱託医、スクールカウンセラー、京都大学医学部卒業。NPO法人「子どもの権利支援センターぱれっと」理事長。シリーズ合計で400万部突破の『子育てハッピーアドバイス』(発行=1万年堂出版、イラスト太田知子)の著者。親子で読んで「自己肯定感」を育むことができるような、イギリスの原作を、明橋先生が初めて翻訳された絵本『ピンクになっちゃった!』(リン・リカーズ作、マーガレット・チェンバレン絵、1万年堂出版、本体1,400円+税) = 写真 = が2013年10月中旬発売予定。ピンク色のペンギン、パトリックを主人公にした心温まる内容です。ぜひ一読を。

真生会富山病院 心療内科部長
明橋 大二先生